



国道298号 東京外かく環状道路(外環)
いちかわうらやす
 国道357号から県道市川浦安線までの国道部(暫定2車線)
 開通約1ヵ月後の交通状況のお知らせ

記者発表資料

平成21年8月8日(土)に外環(千葉県区間)のうち、国道357号からいちかわうらやす県道市川浦安線までの国道部(暫定2車線)延長約3kmが開通しました。

このたび、開通約1ヵ月後における周辺道路の交通状況に関する調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

①:開通区間の交通量は1日あたり約1万台

- 開通区間周辺の交通量が1日あたり最大約2割減少。

②:市川市街地と湾岸方面とのアクセス性が向上

- 市川市役所周辺と千鳥町交差点間の所要時間が約2割短縮。
- アンケート回答者の約8割が市川市街地と湾岸方面とのアクセス性が向上したと回答。

③:生活道路の安全性が向上

- アンケート回答者の約7割が開通区間周辺の生活道路を安心して通行できるようになったと回答。

引き続き、交通状況の変化等を把握しながら、よりよい道づくりに努めて参ります。

平成21年10月1日

国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所
 東日本高速道路(株) 関東支社 千葉工事事務所

発表記者クラブ

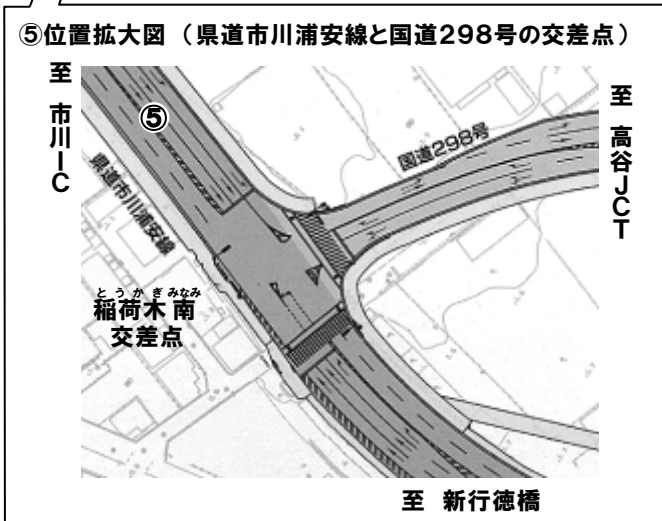
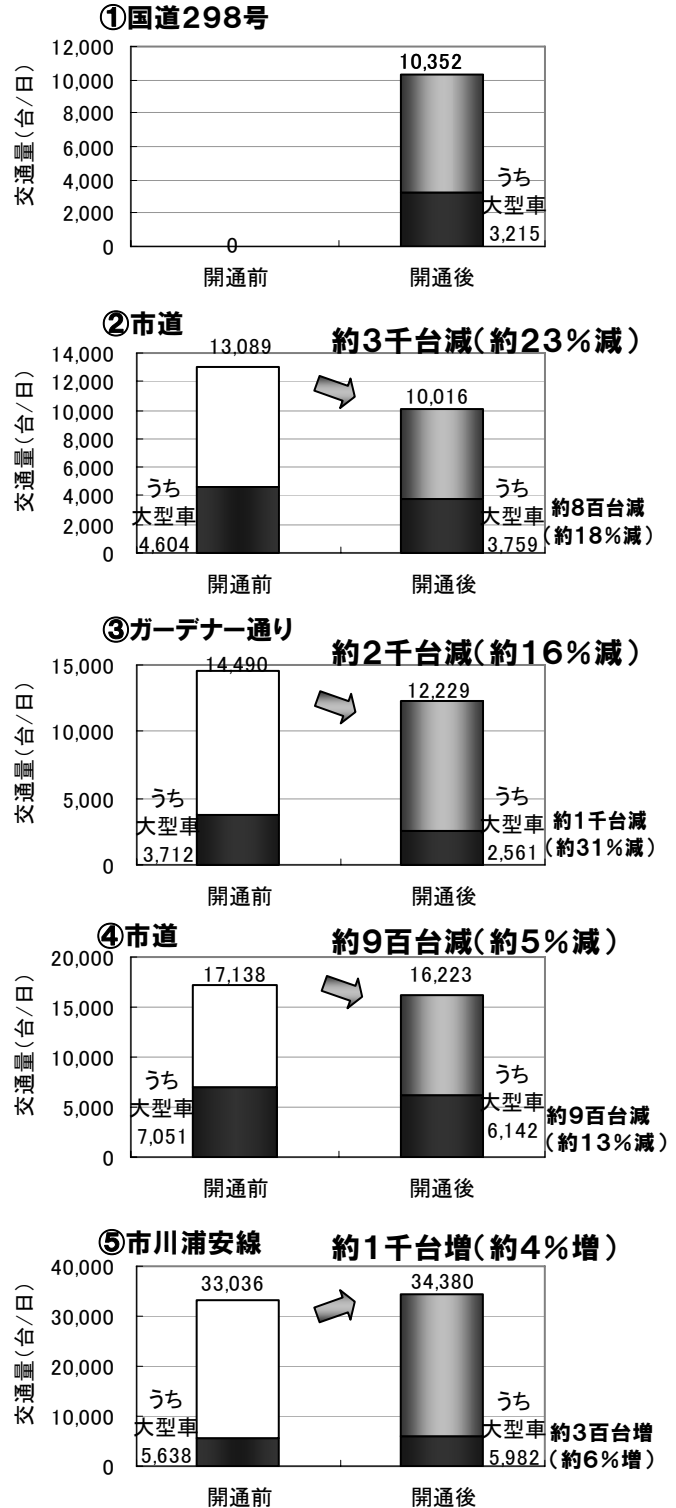
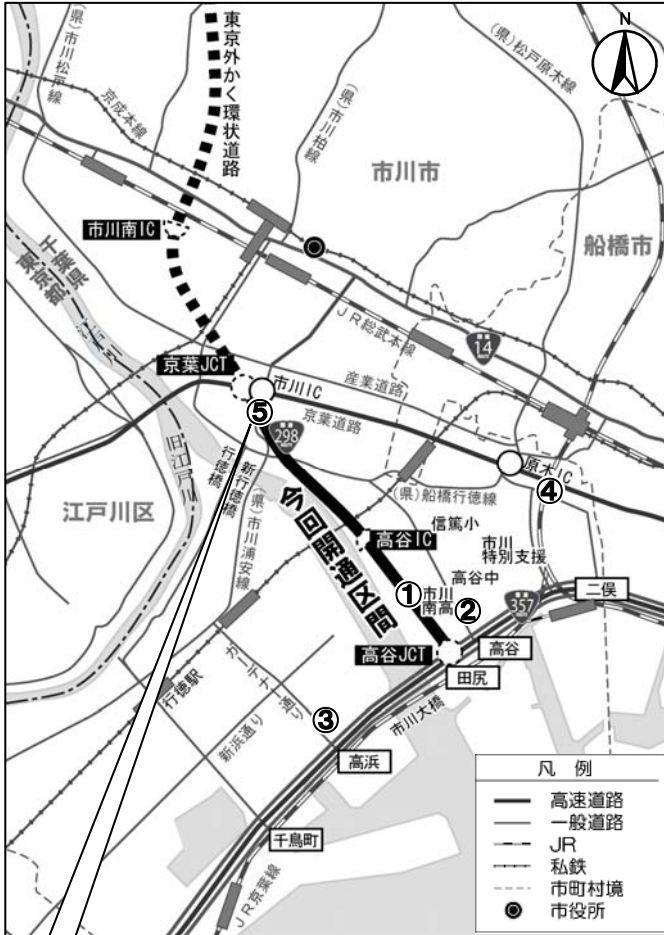
竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会
 千葉県政記者クラブ、市川市政記者クラブ、松戸記者クラブ

お問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局	首都国道事務所	電話047-362-4111(代)
	地域広報官 <small>かねこ</small> 金子 <small>つよし</small> 剛	計画課長 <small>まるやま</small> 丸山 <small>まさひろ</small> 昌宏
東日本高速道路(株)関東支社	千葉工事事務所	電話043-350-3321(代)
	副所長 <small>まつむら</small> 松村 <small>たつゆき</small> 龍之	工務課長 <small>ちば</small> 千葉 <small>たかひと</small> 隆仁

①: 開通区間の交通量は1日あたり約1万台

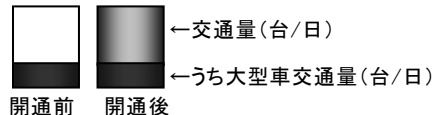
- 開通区間周辺の交通量が1日あたり**最大約2割(23%)減少**。
- 開通区間周辺の大型車交通量が1日あたり**最大約3割(31%)減少**。
- 市川IC周辺の交通量は1日あたり**約4%増加**。



【調査日】

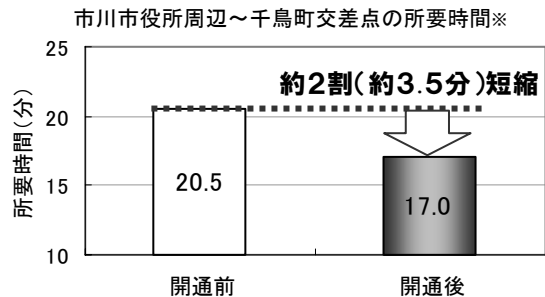
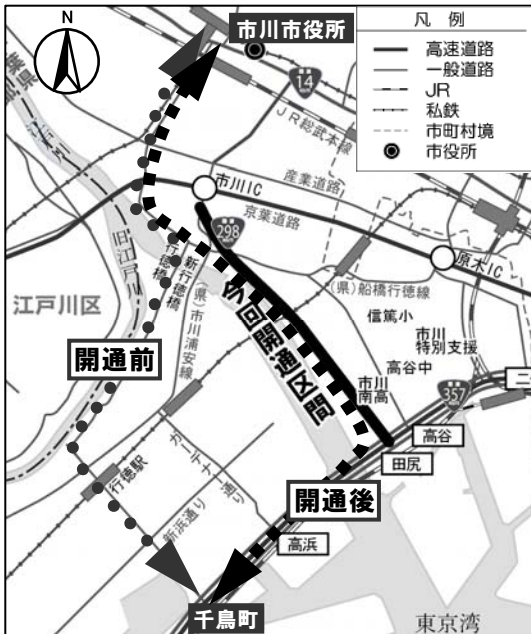
開通前 ③:平成21年2月17日(火)、②④⑤:平成21年3月3日(火)
 開通後 平成21年9月8日(火)

【凡例】

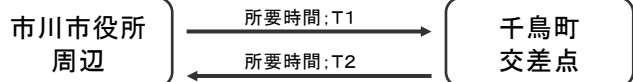


②:市川市街地と湾岸方面とのアクセス性が向上

- 市川市役所周辺と千鳥町交差点間の所要時間が**約2割短縮**。
- アンケート回答者の**約8割**が市川市街地と湾岸方面との**アクセス性が向上**したと回答。



※所要時間 T : 双方方向の所要時間の平均 $\{(T1+T2)/2\}$



【調査日】(プローブ調査)

開通前:平成20年7月～平成21年2月のうち平日10日間(7時～19時)

開通後:平成21年9月のうち平日3日間(7時～19時)

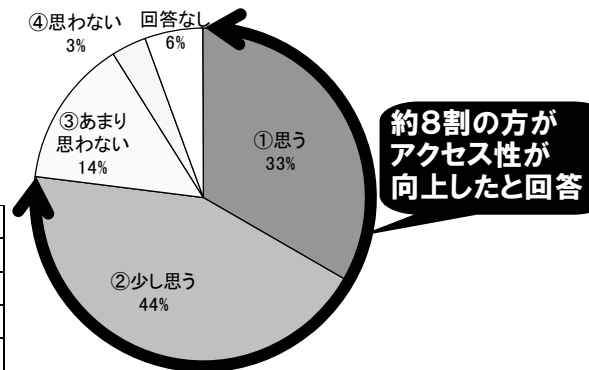
※高谷ICは開通区間に含まれません。IC・JCT名は仮称です

< アンケート調査結果 >

Q 今回の開通により、市川市街地と湾岸方面とのアクセス性が向上したと思いますか？

■ アンケート調査の概要

調査主体	国土交通省関東地方整備局 首都国道事務所
調査対象者	いちかわ産フェスタに来場された皆さま
調査方法	来場者が直接記入
調査日	平成21年9月6日(日)
回収件数	1,300件



< 地元住民や地元企業からの声 >

- 広く走りやすい道路になり、大型車が安全に走行できるようになった。【物流業者】
- 国道357号原木地区から市川市街地や江戸川区への商品搬送が便利になった。【小売業者】
- 市川市北西部などから清掃工場(市川市クリーンセンター)へゴミを搬送する際、開通後はスムーズにアクセスできるようになった。【ゴミ収集業者】
- 外環の残る区間も早く整備してほしい。【地元住民】
- 市川IC付近が混雑し、国道298号から県道市川浦安線への交通が流れにくい。今まで通れた道が開通後に通れなくなった箇所もあり不便。【工業関係者など】



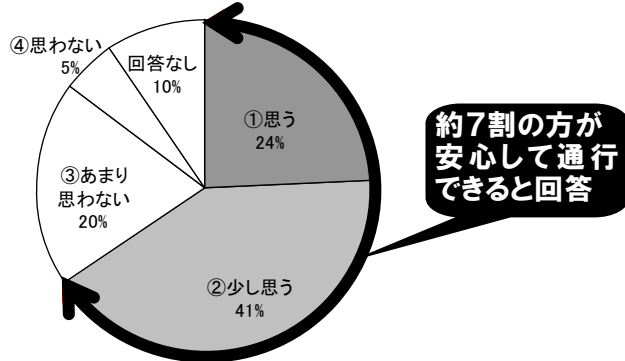
開通区間の状況写真【田尻5北2交差点】
平成21年9月26日(土) 16時頃撮影

③:生活道路の安全性が向上

- アンケート回答者の**約7割**が開通区間周辺の**生活道路を安心して通行**できるようになったと回答。

< アンケート調査結果 >

Q 今回の開通により、開通区間周辺の生活道路を車や人が安心して通行できるようになったと思いますか？



写真位置図



< 地元住民や地元企業からの声 >

- 高谷地区や原木地区の生活道路を車や人が安心して通行できるようになった。【地元住民】
- 開通区間の周辺道路で交通量が減少し、特に大型車が少なくなっている。【自治会関係者】
- 開通後、^{しんたく}信篤小学校周辺の生活道路において、交通量が減少したため、通学時の児童の安全性が向上した。【交通安全指導員】
- 外環を利用することで、通学時の安全性や通学時間が短縮するため、生徒も便利になったようである。【学校関係者】
- 外環は歩道が整備されているため、近隣の方々が犬の散歩などで外環を利用しているが、歩道の連続していない箇所があり不便に感じる。【自治会関係者】
- 開通区間は見通しが良く、歩行者や自転車の急な飛び出しがないので、安全に安心して走行できるようになった。【ゴミ収集業者】
- 運転していると走りやすい反面、速度が出やすいため、合流部や交差点部などで危険を感じる。【工業関係者など】



写真 A: 開通後の信篤小学校周辺の通学状況写真
平成 21 年 9 月 15 日(火) 15 時頃撮影



写真 B: 開通区間の状況写真【田尻5南交差点】
平成 21 年 9 月 26 日(土) 16 時頃撮影



写真 C: 開通区間の状況写真【高谷3交差点】
平成 21 年 8 月 12 日(水) 12 時頃撮影